

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 地域社会に貢献する、自立した人を育てる高校

地域社会とのつながりや普通科総合選択制ならではの多様な学びを通じて、生徒一人ひとりの興味、関心や学ぶ意欲を育み、地域社会を支える人づくりをめざす。

## 【育てたい力】

- 興味、関心や学ぶ意欲と確かな学力
- 人とつながる力（コミュニケーション力）と発信力（プレゼンテーション力）
- 将来の目標に向かって持続的に努力する粘り強さ
- 豊かな人権感覚、地域や社会に貢献する姿勢

## 2 中期的目標

## 1. 新たなステージへの進化

普通科総合選択制高校、地域に根ざした高校としての実績、強味を最大限生かして高校再編事業に取り組む。  
早期に校内 PT を立ち上げ、マスタープランをつくる。

## 2. 確かな学力の育成と進路実現

ア 授業公開、研修、授業アンケート（年 2 回）、研究授業を連動させ、年間の授業改善サイクルを充実させる。  
ユニバーサルデザインを意識した教育環境の整備、わかりやすい授業づくりに取り組む。  
ICT を活用した授業改善にも取り組む。  
教員のニーズに応じた研修の充実を図る

イ 人とつながる力（コミュニケーション力）と発信力（プレゼンテーション力）の育成

生徒の興味や関心、社会と繋がる意識を育てる課題解決型、探究型の「考える」授業づくりに取り組む。

高校改編を見据え、普通科総合選択制高校の特色であるエリアの学びを共有、発信する「エリア発表会」（2 年次）を継続、発展させる。  
「総合的な学習の時間」や LHR、学校行事を通じて、つながる力（コミュニケーション力）や発信力（プレゼンテーション力）を育てる。

ウ 学年の学力生活実態調査結果や定期考査の振り返りを活用し、進路への意識づけ、学習の充実を図る。

学年の進路指導部、学習指導部の連携のもと、早い時期から進路に向けた適切な学習指導を継続的に行っていく。

「進路実現満足度 100%の学校」をスローガンに、進路について考える機会を増やし、丁寧な進路指導・学習支援を通じて、生徒一人ひとりに  
とって満足度の高い進路実現をめざす。

a. 生徒向け学校教育自己診断「エリアや授業は将来の役に立つ」、b. 普総選アンケート（3 年）「進路は選択エリアと関連があった。」の  
各項目について 3 年目の H29 には a. 90%、b. 80%をめざす。

## 3. 豊かな人権感覚の醸成

ア 学校行事やクラス活動における生徒相互の関わりや協働性を重視し、自尊感情や生徒相互の信頼感を醸成する。

イ 生徒の実態に即した課題を設定し、当事者の話を聴くなど共感に基づく人権学習を通じて、豊かな人権感覚を醸成する。

ウ 実習や体験、発表、地域活動への参加等を通じて自己有用感や自己肯定感を醸成し、公共心やボランティア等社会貢献への意識を育てる。

## 4. 「ともに学び、ともに育つ」教育、生徒支援の充実

ア 人権教育推進委員会、教育相談委員会、支援教育コーディネーターの連携を密にし、校内の教育相談・支援体制の充実を図る。  
高校生活支援カードを有効に活用し、支援の必要な生徒の早期発見、実態把握に努め、必要な支援体制をつくる。  
状況把握、経過観察、情報共有に努める。  
必要に応じてケース会議を適宜開催し、外部機関や専門家とも連携して、生徒理解を深め、支援の充実に努める。

イ 共生推進教室の取組みの充実を図り、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。

共生推進教室で学ぶ生徒への適切な指導、必要な支援を通じて、自己理解と社会参加への自信、就労への意欲を育てる。

共生推進教室で学ぶ生徒との日常的な交流を通じて、全ての生徒に障がいのある人への理解、共生の意識を育む。

3 年卒業時、共生推進教室で学ぶ生徒の就労 100%をめざす。

## 5. 規範意識の醸成

ア 部活動加入を積極的に奨励し、生徒の学校生活の充実を図る。日々の部活動を通じて協調性や積極性、努力する態度を育てる。

イ 遅刻、頭髪、服装、原付、あいさつ、清掃等の指導等、基本的生活習慣やマナーの確立を通じて、社会性を育てる。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分] 数値は H27 の肯定的評価 < 【 】 内は H27 の肯定的評価 >	学校協議会からの意見
<b>授業改善</b> 「授業はわかりやすい。学習意欲が高まる。」 生徒 63.7% 【64.1%】 1 年 61.8% 【63.8%】 2 年 66.9% 【61.2%】 3 年 61.5% 【67.2%】 教員 97.5% 【100%】 「授業での生徒の学力を伸ばす工夫。」 生徒 68.9% 【67.8%】 1 年 65.7% 【69.7%】 2 年 72.2% 【61.1%】 3 年 68.0% 【72.5%】 教員 97.5% 【100%】 「授業は静か。勉強に集中できる。」 生徒 67.9% 【62.8%】 1 年 59.6% 【75.1%】 2 年 78.1% 【66.6%】 3 年 63.5% 【44.7%】 教員 95.1% 【94.0%】 「生徒の学力向上に熱心な先生が多い。」 生徒 68.0% 【67.8%】 1 年 62.1% 【70.4%】 2 年 72.2% 【61.9%】 3 年 68.8% 【70.9%】 教員 100% 【98.0%】	<b>第 1 回 7 月 9 日 (土)</b> ○ 7 地区の子どもが減ってきているが、これからさらに急激に減っていく。今後どうなるか分からない。金剛高校の強みを生かした広報活動を展開してほしい ○ 生徒の表現力が向上している。生徒自身が考え、主体的に動いている。地域の文化や特徴、表現の豊かさをうまく取り入れたらもっと良い学校になる。 ○ 共生推進教室の取組みは、周りの生徒だけでなく、先生方にもいい意味での刺激を与えているのではないかと。2 学期の文化祭でどのような関わりが生まれ、生徒がどのように成長していくのか楽しみだ。 ○ 昔に比べ、大幅に遅刻者数が減っている。学校としての取組みの成果といえる。 ○ 地域の中学校や大学との連携が進んでいるが、もっといろいろな場面で連携できればいい。また、卒業生とのつながりや現役生への関わりが増えるとさらにいい。 <b>第 2 回 10 月 23 日 (土)</b> ○ 10 月に導入された ICT 設備を実際に見て、活用状況等が確認出来てよかった。今は最新鋭の機材だが将来の更新にかかる費用は心配だ。どうしていくか今から考えておいてほしい。授業改善とともに授業以外でも積極的に活用してもらいたい。 ○ 大学へ進学すれば終わりではなく、生徒が当初イメージしていた出口、進路指導をしてもらいたい。

## 府立金剛高等学校

## 学校の満足度

「金剛高校に満足している。」

生徒 87.1% 【87.1%】 1年 87.1% 【91.5%】  
2年 90.7% 【80.6%】 3年 83.0% 【88.2%】

「エリアや授業は将来の役に立つと思う。」

生徒 86.8% 【86.6%】 1年 90.9% 【91.2%】  
2年 88.3% 【82.7%】 3年 81.2% 【85.1%】

☆「普通科総合選択制高校アンケート」（3年）

「普総選高校で学んでよかった」 86.9% 【92.7%】

「卒業後の進路は自分が選択したエリアと関連があった」  
64.1% 【77.8%】

## 安全で安心な居場所、クラスづくり

「クラスは一人ひとりが大事にされ話しやすい。」

生徒 84.6% 【83.1%】 1年 84.8% 【81.2%】  
2年 85.5% 【80.9%】 3年 83.4% 【87.3%】

「先生は問題を見逃さず親身に相談に応じてくれる。」

生徒 72.5% 【72.3%】 1年 68.9% 【76.7%】  
2年 75.4% 【63.8%】 3年 72.4% 【75.6%】

## 人権問題への理解、社会的課題への関心

「人権を学ぶ機会と人権問題への理解。」

生徒 84.1% 【82.3%】 1年 94.5% 【89.5%】  
2年 75.5% 【65.3%】 3年 84.0% 【89.4%】

「総合等での新しい社会的課題を学ぶ機会があった。」

生徒 80.0% 【80.7%】 1年 78.3% 【85.1%】  
2年 80.4% 【72.1%】 3年 81.1% 【83.6%】

「HRや発見（総合）で生き方や将来を考える機会があった。」

生徒 80.8% 【83.2%】 1年 89.4% 【94.2%】  
2年 77.3% 【65.8%】 3年 76.0% 【86.1%】

☆3年間の人権意識の変化を比較した「人権意識調査」（3年）

「人権に関心を持っている。」

3年次 81.2% 【82.6%】 ← 1年次 62.2% 【58.9%】

「自分を大切にす気持ちが高まった。」

3年次 62.9% 【76.1%】 ← 1年次 70.0% 【67.2%】

「人間関係の大切さを学んだ。」

3年次 80.8% 【94.5%】 ← 1年次 93.3% 【89.4%】

「差別的な言動を見聞きした時、どのような態度をとるか。」

○『差別を指摘して話し合う。差別はいけないと伝える努力をする。』

3年次 57.1% 【53.2%】 ← 1年次 43.4% 【46.4%】

○『何もせずに黙っている。』

3年次 10.4% 【10.8%】 ← 1年次 12.8% 【15.0%】

## 進路指導

「進路について学校は必要な情報や機会を提供している。」

生徒 90.1% 【90.9%】 1年 91.7% 【94.5%】  
2年 91.5% 【84.7%】 3年 87.1% 【92.8%】

「放課後や土曜日、長期休業中の講習、校内模試など進路実現に向けて取り組んでいる。」

生徒 78.6% 【82.2%】 1年 78.4% 【77.2%】  
2年 74.4% 【81.3%】 3年 83.9% 【88.7%】

「進路相談やHRなどで熱心に進路指導している。」

生徒 78.5% 【81.3%】 1年 72.0% 【82.4%】  
2年 82.8% 【76.0%】 3年 78.8% 【85.2%】

## 生徒指導

「学校生活全体の指導は適切である。」

生徒 81.9% 【82.3%】 1年 82.1% 【84.7%】  
2年 84.1% 【73.8%】 3年 79.1% 【87.8%】

「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切である。」

生徒 74.2% 【74.0%】 1年 73.5% 【73.8%】  
2年 72.9% 【68.9%】 3年 76.5% 【79.4%】

- 大学生が学習支援員として共生の取組みに関わることで学校現場を見ることが出来る意義は大きい。教職をめざす大学生にとって大切な体験になっている。
- 金剛はいろいろな取組みをやっていて面白い高校だと思う。授業や学校生活での学びの成果を発表する機会をたくさん作っただけいい。プレゼンテーションの経験は大切だ。
- 授業公開月間（6月、11月）があるのはとても良い。
- 地域との繋がりを大事にしてきた金剛高校らしさを残す形で丁寧に改編作業を進めてもらいたい。

## 第3回2月4日（土）

- 人前で学習成果を発表する機会が授業のいろんな場面で用意されているというのは、生徒の成長にとってとてもいいことだ。大事にしてほしい。
- 1月の金剛高校での体験授業は、進路を考え始める中学2年生にとって高校の教育を体感し、具体的に考えるととても重要なきっかけになっている。中学校として感謝している。この取組みに対する生徒、保護者の評価はとても高く、今後も継続した取組みをお願いしたい。中高連携の一つの在り方として、近隣の中学校から注目されている。
- 今年全HR教室に最新のICT機器が配備され、その活用が進むことがきっかけとなって授業の改善、工夫がさらに前進していることはいいことだ。今後の充実を期待している。
- 新しいシステムへとこれから具体的な改編が進んでいくが、今後も地域との交流や働きかけの工夫に引き続き取り組んでほしい。地域の中でともに育つ学校というだけでなく、積極的に地域を創っていく学校と言えるよう頑張ってもらいたい。
- 1年生を中心にさまざまなテーマでの人権学習に丁寧に取り組んでいる。当事者等との出会いを大切に学習活動を今後もお願いしたい。
- 学校教育自己診断の授業評価がいくつかの項目で徐々にではあるが上がっているのが評価できる。ただ、生徒、保護者と教員の評価のズレにもっと注目し、教師自身がそこにある問題を意識化し、さらなる改善に取り組むいくことが課題。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 新たなステージへの進化	普通科総合選択制高校、地域に根ざした高校としての実績、強味を最大限に生かした学校づくり	年度当初に校内に高校再編PTを立ち上げる。8月末までに改編プランの基本構想(案)をつくる。	学校協議会に基本構想(案)を提示し、意見をもらう 近隣の中学校、すこやかネット等地域の会合に出向き、基本構想(案)について意見をもらう	6月再編PT設置。18回開催(1月末現在)9月学校コンセプト、コース案、施設整備案を職員会議に提示。10月学校協議会で準備状況の概要を説明し意見聴取。その後検討を続け11月学校としてのコース案(修正案)を作成。中学校訪問で富田林市内をはじめ近隣中学校長の意見を聴取。その他連携先の学校、団体にも意見聴取。各方面とも好評価。1月末教育課程案を作成。各厳しい制約の中で各方面の意見を踏まえ再編PTを中心に学校全体で再編作業に順調に取り組んでいる。(◎)
2. 確かな学力と進路実現	ア わかりやすい授業づくり イ 「考える」授業づくり ウ 地域と連携しての交流、体験学習学習成果の発信 エ 進路に向けた意識の醸成	ア. 授業改善サイクルの充実を図る。年2回の授業アンケートだけでなく、生徒との対話を通じて授業改善に努める。 授業改善研修の充実。 授業公開、各教科での研究授業の実施。 イ. 授業での言語活動を重視し、グループでの学習活動や発表の機会を取り入れる。 各エリアでの学習の充実を図り、エリア発表会でその学習成果を発表する。 ウ. 特色ある授業や取組みでの地域の学校、施設、団体との交流、体験を継続、推進する。 生徒の成長や学習成果を地域に発信する。 エ. 各学年の進路指導部と学習指導部の連携会議を軸に、生徒情報や進路課題を共有し、1年次から、進路を考えさせるキャリア教育に取り組み、進路に向けた意欲を育てる。	ア. 生徒向け学校教育自己診断「わかりやすい授業」【64.1%】→67.9%、「学力を伸ばす工夫」【67.8%】→70%、「授業が静かで集中できる」【62.8%】→65%、「生徒の学力向上に熱心な先生が多い」【67.8%】→70.0%を目標に取り組む イ. エリア指定科目等での言語活動を重視した探求型・体験型授業の実践 生徒向け学校教育自己診断「エリアや授業は将来の役に立つ」【86.6%】→88% 普総選択アンケート(3年)「進路は選択エリアと関連があった」【77.8%】→78%を目標に取り組む ウ. 保育や福祉、理科等特色ある授業での学校、施設、団体との交流、体験授業の実践、新規の取組み エリア発表会の開催 じないまち芸術展の開催等 自己評価による成果と課題を学校協議会に提示、意見をもらう エ. 生徒向け学校教育自己診断「進路に必要な情報や機会の提供」【90.9%】→90%超え、「進学講習や校内模試等進路実現の取組み」【82.2%】、「進路相談やLHRでの熱心な進路指導」【81.3%】→それぞれ83%を目標に取り組む	ICTを活用した授業づくりの研修(8月)。授業アンケート結果をもとに各自、教科で1学期の授業の振り返り(8月)。2学期授業で授業アンケート結果を踏まえ、授業についての考えや授業改善策を生徒にフィードバック。(9-10月)全HR教室に短焦点型プロジェクター・アップルTVを配備。(10月)授業改善、研究授業の実施(11月、1-2月)第2回授業アンケート(12月)をもとに授業改善の効果の振り返り。プロジェクター等ICT導入を契機に、授業の工夫、改善に取り組む機運が高まった。(○) <u>生徒向け学校教育自己診断</u> 「わかりやすい授業」63.7%【64.1%】 「学力を伸ばす工夫」68.9%【67.8%】 「授業が静かで集中できる」67.9%【62.8%】 「生徒の学力向上に熱心な先生が多い」68.0%【67.8%】 「授業が静かで集中できる」以外目標値には至っていないが、一定わかりやすい授業づくり、学力を伸ばす工夫には一定取り組めた。教員によって差はあるものの、それぞれの工夫、努力はある程度生徒に伝わっている。一層、相互に連携、協力し授業改善に取り組んでいく必要がある。(○) 保育・福祉、理科等特色ある授業での学校、施設、団体との交流には今年も活発に取り組んだ。介護基礎、福祉基礎(ともに3年)で藤沢台小学校と、地域実習(2年)で津々山台幼稚園等と昨年に引き続き今年も授業交流を実施。中高連携の一環で葛城中学校2年生の進路学習のスタートとして本校で体験授業を1月26日実施。6年目を迎える。 2月8日にエリア発表会を実施予定。(すばるH)じないまち芸術展を12月に開催。ともに4年目を迎え、エリア指定科目や選択授業等での実習、課題研究、発表等の言語活動が定着してきた。芸術系授業は地域への発信にも熱心。エリア発表会の取組み以外にも英語や国語の授業では発話や音読、作品鑑賞等言語活動に取り組んでいる。学校協議会の評価は高い。(◎) <u>生徒向け学校教育自己診断</u> 「エリアや授業は将来の役立つ」86.8%【86.6%】 <u>普通科総合選択制高校アンケート(3年)</u> 「進路は選択したエリアと関連があった」64.1%【77.8%】 目標値には若干達していないものの学校全体としては昨年並み。(生徒向け学校教育自己診断)普総選アンケート(3年)はここ数年で最も評価が高かった昨年の水準を目標としたが、最終的には一昨年に近い数値に落ち着いた。(○)

## 府立金剛高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3. 豊かな人権感覚の醸成</p>	<p>ア 生徒相互の関わり、協働性の重視 自尊感情や相互の信頼感を醸成する人権学習、総合学習、学校行事</p>	<p>ア. 新入生オリエンテーション（1年）、クラススタートアップ、個人面談、遠足に至る年度当初クラスづくりを通じて、安心感のある高校生活を支援する。 行事等のクラス活動を通じて、生徒相互の関わりや協働性を育てる。</p> <p>イ. 生徒の実態に即し、当事者との出会いや体験等、生き方を考えさせる人権学習、総合学習を企画し、実施する。 人権研修の充実。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断 「金剛高校に満足している」【87.1%】「一人ひとりが尊重され気軽に話せるクラス」【83.1%】→それぞれ85% 普総選択アンケート（3年） 「普総選で学んでよかった」【92.7%】→90%超えを目標に取り組む</p> <p>イ. 生徒向け学校教育自己診断 「人権問題の理解」【82.3%】、「社会の新しい課題を学ぶ機会」【80.7%】、「HRや総合で生き方や将来について考えた」【83.2%】→それぞれ83%を目標に取り組む 人権意識調査（3年） 「人権に関心を持っている」、「自分を大切にしている気持ちが高まった」、「人間関係の大切さを学んだ」の1年からの上昇、「差別的な言動を見聞きした時の態度」について『差別を指摘し話し合う。伝える努力をする』【6.8%↑】、『何もせずに黙っている』【4.2%↓】という項目の1年から3年への5%以上の変化を目標に取り組む</p>	<p><b>生徒向け学校教育自己診断</b> 「進路に必要な情報や機会の提供」 90.1% 【90.9%】 「進学講習や校内模試等進路実現の取り組み」 78.6% 【82.2%】 「進路相談やLHRでの熱心な進路指導」 78.5% 【81.3%】 生徒向け学校教育自己診断の結果は「進路に必要なひつような情報や機会の提供」は目標値に達している。他の項目は昨年よりやや下回っている。学年別で観ると2年の評価は上がっているが1、3年はやや下がっている。昨年以上の高い目標を掲げての結果だが、年間通しての取り組みとしては概ねしっかりできた。(○)</p> <p><b>生徒向け学校教育自己診断</b> 「金剛高校に満足しているか」 87.1% 【87.1%】 「一人ひとりが尊重され気軽に話せるクラスか」 84.6% 【83.1%】</p> <p><b>普通科総合選択制高校アンケート（3年）</b> 「普総選高校で学んでよかった」 86.9% 【92.7%】 生徒向け自己診断については、目標達成または目標に近い数値の結果。普総選アンケート（3年）は昨年の高い値からするとやや下がっていて、目標には届いていないが、それでも普総選各校の中では高い。1年は新入生オリエンテーションから、2、3年クラススタートアップから個人面談、遠足と、4月当初は各学年とも丁寧にクラスづくりに取り組んでいる。行事、クラス活動等を通じて、生徒相互の関わりから協働性も生まれ、学校、クラスが安心できる居場所だと感じている生徒が多い。 沖縄宮古島の自然や人情に触れた民泊、体験型修学旅行は生徒（2年）の満足度が高く、多くの生徒にとってライフスタイルや生き方を考えるきっかけとなった。(◎)</p> <p><b>生徒向け学校教育自己診断</b> 「人権問題の理解」 84.1% 【82.3%】 「社会の新しい課題を学ぶ機会」 80.0% 【80.7%】 「HRや総合で生き方や将来について考えたか」 80.8% 【83.2%】</p> <p><b>人権意識調査（3年）：1年次と3年次の比較</b> 「人権に関心を持っている」 19.0%↑：3年次81.2%←1年次62.2% 「自分を大切にしている気持ちが高まった。」 7.1%↓：3年次62.9%←1年次70.0% 「人間関係の大切さを学んだ。」 13.3%↓：3年次80.8%←1年次93.3% 「差別的な言動を見聞きした時、どのような態度をとるか。」 ○『差別を指摘して話し合う。伝える努力をする。』 13.7%↑：3年次57.1%←1年次43.4% ○『何もせずに黙っている。』 2.4%↓：3年次10.4%←1年次12.8% 3年間の学習を通じて人権に対する関心、意識は高くなっている。自己肯定感や人間関係の大切さに対する意識の下降は気になるが、差別に直面した時、沈黙せずに伝える努力など何らかの行動を起こそうとする意識は、目標値を大きく超えて上昇している。3年間の地道な取り組みの成果といえる。(○)</p>
--	---	---	---	--

## 府立金剛高等学校

<p>4. 「ともに学び、ともに育つ」教育、生徒支援の充実</p>	<p>ア 生徒の実態把握ときめ細やかさや支援、指導</p> <p>イ 共生推進教室の教育内容の充実、ともに学びともに育つ教育の推進</p>	<p>ア. 生徒支援カード（1年生）の情報を学年会議、教育相談委員会で共有し、支援の必要な生徒の早期の発見、実態把握に努め、必要に応じた支援体制をつくる。支援教育研修の充実。</p> <p>イ. 教育相談委員会、人権教育推進委員会で生徒状況の経過観察を行い、学年と協議の上必要に応じてケース会議を開く。外部機関や専門家とも連携して、支援にあたる。共生推進教室の生徒についても、共生推進コーディネーターと密に連携し、必要に応じて適切な支援、ケース会議の開催を行う。</p> <p>ウ. たまがわ高等支援学校と連携して、共生推進教室の生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導や必要な支援を行う。</p> <p>エ. 本校で学ぶすべての生徒に共生推進教室の意義を周知し、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断「問題を見逃さず相談に応じてくれる」【72.3%】→75%を目標に取り組む</p> <p>イ. ケース会議の適切な開催、成果</p> <p>ウ. 自己評価による成果と課題を学校協議会に提示、意見をもらう</p> <p>エ. 自己評価による成果と課題を学校協議会に提示、意見をもらう 学校教育自己診断に新規項目を設定</p>	<p><b>生徒向け学校教育自己診断</b> 「問題を見逃さず相談に応じてくれる」 72.5% 【72.3%】</p> <p>目標値には達していないが若干上昇している。人権教育委員長、教育相談委員長、支援教育コーディネーターと学年団の連携で、常に支援や配慮の必要な生徒情報の共有はできている。担任を窓口にした相談や情報の収集、学年団、教科担当者での対象生徒の経過観察も一定程度できている。生徒支援カードの有効活用についてはさらに工夫が必要。(○)</p> <p>外部の専門家を招いてのケース会議の開催頻度は多くなかったが、個別の支援については必要に応じて小規模のケース会議や関係者会議を適宜開き、具体的支援を取り組んだ。(○)</p> <p>共生推進はまだまだ試行錯誤の途上。学年によって生徒状況は異なるが、その都度関係者会議を開き、共生支援 Co、担任を中心に、粘り強く一つひとつの課題解決に取り組んできた。行政や地域の支援機関、専門家の協力、たまがわ高等支援本校と丁寧に関わり、生活支援、学習支援のあり方を模索した。学校協議会は引き続きの努力を含め概ね評価。学校教育自己診断の新規項目の設定については共生コース3学年がそろった段階での実施を検討する。(○)</p> <p>全教員で行った1年（1学期）の原学級授業の見守りは、個々の生徒理解を深める上で意味があった。課題は多いが、次年度に繋がる取組みはできている。今年度は、クラス、学年の生徒が共生生徒と接する機会がずいぶん増えた。彼らを理解し、何らかの形で関わろうとする姿勢が当該クラスでは育まれている。学校協議会は好評価。(○)</p>
<p>5. 規範意識の醸成</p>	<p>ア 基本的な生活習慣の確立</p> <p>イ 部活動の促進</p>	<p>ア. 生徒指導部と学年が一体となって遅刻、頭髪、服装、原付等の指導を行う。あいさつ、特に朝のあいさつの励行を全教員で推進する。</p> <p>イ. さまざまな機会を通じて、新入生への部活動への参加を積極的に推進する。</p>	<p>ア. 年間遅刻者 1400 以下を目標に取り組む 生徒向け学校教育自己診断「学校生活全体の指導は適切か」【82.3%】→83%、「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切か」【74.0%】→75%を目標に取り組む</p> <p>イ. 新入生の70%入部、60%定着</p>	<p><b>年間遅刻者</b> 生徒の基本的な生活習慣が安定してきたこと、そして生活指導部と各学年団の協力による粘り強い遅刻指導が効を奏して着実な成果をあげている。生徒層が変わり激減した昨年(1月末)の実績1124には届かなかったが、生活指導部と学年団の連携、粘り強い指導で1365（1月末）に抑えた。2月末では1475（学年末考査終了時）となり、目標達成には至らなかったが、年間を通じて丁寧に粘り強い取組みはできた。今年度の課題を踏まえ次年度再度1400以下に挑戦したい。(○)</p> <p><b>生徒向け学校教育自己診断</b> 「学校生活全体の指導は適切。」 81.9% 【82.3%】 「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切。」 74.2% 【74.0%】</p> <p>目標値に若干届いていないが、生徒は概ねみんなが守るべき学校の規則、指導を理解し、その指導は適切と受け止めている。(○)</p> <p>1年生のクラブ加入は1学期段階では70%に達した。2学期以降も60%程度の生徒が継続加入している。(○)</p>